

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童多機能型事業所 そらのいろ			
○保護者評価実施期間	令和6年11月25日		～	令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和6年12月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	肢体不自由児や運動機能面に不安のある子どもに対して、理学療法士が訪問支援を行うことができる。	訪問先の環境や支援者の介護力等を踏まえた上で、安全に行える方法を提案するように心がけている。	他の福祉サービス事業所や医療機関等とも連携を深めていき、さまざまな支援者の意見を総合的にアセスメントして訪問支援できるように努める。
2	心理面で不安定な子どもやクラスメイト・先生と上手く関われない子どもに対して、臨床心理士が訪問支援を行うことができる。	訪問先での様子と当事業所での様子を照らし合わせながら、訪問先の先生が取り組める関わり方を提案するように心がけている。	訪問先との連携を深めていき、些細なものでも困っていることがあれば対応できるようにしていく。
3	訪問支援以外の時間でも、訪問先の先生と情報共有を行っている。	保護者や訪問先の先生から、学校での様子について事前に情報共有させていただいている。また、先生方が対応可能な方法を提案するように心がけている。	今後も訪問支援の前後で保護者や訪問先の先生としつかりと情報共有していき、支援に満足していただけるように努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	理学療法士が主に保育所等訪問支援を実施しているが、継続して利用している方が少ない。	運動面で不自由な利用者自体が少ない。また、1度訪問支援を行った後は問題が軽減し、上手く活動できているケースもある。	保育所や学校等での困り事を本人・保護者・訪問先の先生に随時確認し、利用児が快適に過ごせるように支援していく。
2	保護者に対して対面での相談支援は実施しているが、ペアレントトレーニングや保護者会等は実施できていない。	自立支援協議会で実施されている保護者対象の情報交換会の案内をして参加しているが、自事業所で保護者会等を企画できていない。	子どもたちが当事業所で過ごしている様子を保護者の方々に見てもらい機会を作り、そこで保護者同士の関わりも提供できるように努めていく。